

獣害対策ラボ

シカ対策チェックリスト

跳ばせない・潜らせない・近づかせない

1.5mの柵は越えられる
「高さ」だけに頼らない実践設計

なぜ1.5mの柵は簡単に突破されるのか？

シカ被害が止まらない最大の理由は、

「高さだけあれば防げる」という思い込みにあります。

シカは

- ・ 高く跳ぶ
- ・ 地形を読む
- ・ 夜間でも行動する

という特徴を持つ動物です。



特に多い失敗が次の3つです。

1. 助走できる平地を残している
2. 斜面や段差を考慮していない
3. 夜間に柵が「見えていない」
- 4.

これらが重なると、

1.8mの柵でも「低い障害物」として認識され、簡単に突破されてしまいます。

必須チェック①②

必須チェック①

柵の高さは1.8m以上あるか

(斜面・段差を含めて)

平地で1.8mあっても、

斜面ではシカ目線で1m以下になることがあります。

山側・土手側から侵入される場所は、

「地面の高い側」から必ず確認してください。

必須チェック②

柵の外側に助走スペースがないか

柵の外側に

- ・ 平らな地面
- ・ 2m以上の直線

があると、シカは助走して跳びます。

助走できなければ、跳躍は大幅に成功率が下がります。

必須チェック③④

必須チェック③

夜間でも柵が「見える」状態か

夜のシカは、

細いワイヤーや黒いネットを認識できません。

見えない柵は

「ないのと同じ」です。

- ・白や青のリボン
- ・反射テープ

を一定間隔で付け、

視覚的な壁を作りましょう。

必須チェック④

柵の下に15cm以上の隙間がないか

シカは跳ぶだけでなく、

鼻先でネットを持ち上げて潜ります。

わずか15cmの隙間でも侵入可能です。

対策は

- ・裾を外側に折る
- ・地面にピン固定（L字固定）

が基本です。

必須チェック⑤⑥

必須チェック⑤

角（コーナー）が弱くなっていないか

柵が突破される場所で最も多いのが

角（コーナー）です。

- ・支柱が浅い
- ・ネットが引っ張られている
- ・たるみが出ている

これらがあると、

そこから一気に壊されます。

必須チェック⑥

柵の外側に踏み台になる物がないか

- ・石
- ・切り株
- ・コンテナ
- ・草の山

これらはすべて

「ジャンプ台」になります。

柵の外側1m以内は、

できるだけ何も置かないのが鉄則です。

シカ対策は 「三重構造」で考える

シカ対策で本当に必要なのは、
次の3つを同時に満たすことです。

1. 高さで止める
2. 視覚で警戒させる
3. 地形で助走を奪う
- 4.

**高さだけでは不十分。
見せて、迷わせて、諦めさせる。**

まずはこのチェックリストを使い、
「今ある柵の弱点」を洗い出してください。